

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふつうに、くらせる、しあわせ」を理念とし日々のケアや会議での個別ケアの検討に役立てている	事業所の理念を全職員が理解しています。月の会議や毎日の申し送りの中でも一人ひとりのケアについて話し合い、実践につなげています。具体的なケアについては連絡ノートに記入し共有に努めています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には参加したことが無いが、中学生の職場体験などを受け入れている	市の主催の「ゆめ」チャレンジの中学生を5日間、受け入れています。中学生との散歩、買い物や調理に入居者の皆さんは楽しんだり喜ばれました。日常的な散歩や外出では地域の人達と挨拶や会話もする普通に隣近所のお付き合いをしています。回覧板で事業所を紹介したことがあります。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会長を通じて、ホームについての回覧板を回した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の取り組み状況や日々の実践内容の報告を行い、その場で出た意見を次回までにホームでの全体会議で検討している	事業所からの報告や参加者との意見交換、話し合いが行われています。更に、毎回、議題を決めて有識者や専門家から話を聞いたり、勉強会も行っています。議題は会議で出た疑問をもとに決めています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的ではないが、運営に関する疑問などがある時は電話で担当者と相談している	届出のことや運営上のことなど不明な事などあれば市の担当者に連絡し相談しています。担当者からは研修の紹介、ノロウイルスや感染症の情報など随時メールで送られてきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアや会議で話す機会ができています。玄関は夜間帯以外は開放されている。予防的にユニット入り口にセンサーは設置されている	職員は身体拘束の内容と弊害を理解しています。拘束による入居者の行動を制限する行為は行わないケアに取り組み、入居者が自由に気持ちよく生活できる環境づくりに努めています。ホール出入口のドアベルについて思案しています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけでなく、言葉使いや声掛けの仕方などにも注意を払っている	高齢者虐待防止に関する研修には代表者が参加しています。事業所内において気付かないうちに虐待行為が行われることがないように取り組んでいます。虐待と思われる言動が見られたときには職員間でも注意や助言をしています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には、資料を用意したり機会を見て話しをしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用際に管理者が説明を行っている。契約書の内容を一緒に読みながら説明をしている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で運営についての意見や要望を汲み取っている。また、面会時などでも家族等と要望について話し合える関係がある	ご家族は1~2ヶ月に1回以上、面会に見えています。管理者、職員らは積極的に声を掛けて話しやすい雰囲気作りに努めています。運営推進会議、誕生会、夏祭り等ご家族が集まると意見が出やすいようです。意見、要望等は事の大小に関わらず検討し、運営に反映させています。玄関ホールに外部の相談窓口が書かれた特大ポスターが貼ってあり、ユニット内には意見箱が設置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で意見や提案を聞く機会を設けている。	定例会議で職員から意見を聞くだけでなく日常的に質問したり、聞きだすようにしています。職員からも積極的に要望や提案、疑問に思うことを管理者に伝えていきます。出された事項に関しては皆で検討しながら運営に反映しています。職員等は自分の考えを持って会議に参加しており有意義な話し合いが行われています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の評価により、向上心を養えるようになっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、外部研修を受ける機会を設けている。資格取得の為に勤務の調整なども行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	限られた職員のみ状態である		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学を勧めている。入居時には家族等や担当ケアマネから情報を集めると共に、ご本人と話をする機会を多くしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の話を十分に聞き、その上でご家族の役割についても話していき、一緒にご利用者を支えていけるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問でご本人の状態を確認し、ご家族等や担当ケアマネ、相談員などからも情報を集め判定会議を行い判断している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの場である認識はスタッフ間で統一されているが、言葉使いなどにより、ご利用者からスタッフの方が目上の者だと扱いされることがあった		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診に行ってもらうことで、本人の状態をご家族とホームで共有できるようになっている。面会の機会を増やせるよう行事への参加も促している	定期的に本人の様子を詳細に伝えたり相談しながら本人をご家族と一緒に支えていく関係を作っています。通院に付き添うことや、お盆や年末などの機会に帰省し親族や地域の人達ともふれあうことなど、ご家族しかできないことをお願いしています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等にも協力を依頼し、本人の友人や近所の方々にも面会に来ていただけるように働きかけている。	馴染みの場所への訪問や人との関わりについては集められた情報を参考に本人の意向を確認しながら可能な限り支援しています。ご利用者の自宅の近所の方が「お昼ご飯を食べに行こう」と誘われることもありました。職員のユニット間の異動は行わず親しい関係を大切にしています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフは必要に応じて調整役になるように努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のグループホームに転居された方の面会にいった際に、スタッフと情報を交換し、本人の生活が改善するようにつなげた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や生活の様子から、希望などを汲み取るように努めている。困難な場合も家族等と話しながら対応している	一人ひとりの思いや意向の把握は毎日、心がけながら入居者に接しています。得られた情報は皆で共有しています。把握が難しい入居者に関しては声掛けでの様子を見たりご家族と相談したり職員間で話し合うなどして本人本位に検討しています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族等からの情報や友人等の面会の際に一緒に話しをさせてもらい、これまでの生活をつかめるようにしている	ご家族やケアマネから介護の様子など入居前に話を聞いていますが、入居後も「こんなことを言っています」とデータにない事を伝えると「こうなの」とご家族からその意味を聞くなど入居してからも情報を積極的に集めています。入居者一人ひとりの全体像やその人を理解するために役立てられています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定をし、変化が無いかの確認をしている。掃除・洗濯などを個々の状態に合わせて行っている。ケース記録、連絡帳、会議などを利用して現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行っている。ケアのあり方については月1回のユニット会議で必要に応じて話し合っている	本人・ご家族の意向をもとに職員の意見などを聞きながらケアマネが作成しています。評価、見直しはユニット会議の中で検討しています。ご家族には面会時に説明し確認印を頂いていますが遠方の方については郵送で確認していただいています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事や体調の変化、気付いたことをケース記録に記入している。重要事項などは、申送りや連絡ノートも活用している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応の受診が行えないときなどは、柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の十分な把握は行えていない		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診・往診を行っている。受診時には日常の様子を書面で伝えている。また、体調の変化がある時は連絡し、指示を仰いでいる	本人、ご家族が希望する医師の診察が受けられるよう支援しています。受診の付き添いはご家族にお願いしています。受診時には健康チェック表をコピーした物(特記事項があれば情報書も添付している)をご家族に託し、医療機関に状況を伝えています。病状の悪化など緊急事態が生じたときには主治医または協力医療機関等と連携し適切な治療が受けられるようになっています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームにかかわる看護職がない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報の伝達はおこなえている。入院中も状態の確認を行っており、経過を把握しながら対応に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、見取りのケアは行っていない。入居時や状態に変化があったときなどに、話しを行っている。	見学や入居相談時からご本人、ご家族に重度化、終末期のあり方や対応について事業所の方針を十分説明しています。状態を見ながら医師やご家族と相談し話し合いを重ねています。また特養申請を含めご家族等の意向に沿う支援に努めています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を行っている。急変や事故の内容に合わせてマニュアルも整備されている	入居者の急変や事故などの場面で慌てずに適切な対応ができるよう計画的に救命救急法を学んでいます。急変や事故の項目別マニュアルも整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定しての避難訓練を行っている	年2回、消防署の協力の下、夜間想定を重点的に訓練が行われています。入居者の避難誘導訓練、消火器の取り扱い、通報訓練も同時に行っています。食料品等の備蓄も準備しています。スプリンクラーの設置、防災設備の点検や夜勤者は避難誘導イメージトレーニングを行うなど入居者の安全に配慮した対策がしっかりと取られています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝の挨拶や居室に尋ねた際のノックなど、当たり前の礼儀が行えるように努めている	入居者の対応や声かけは目立たず、さりげなく行われています。また、日常的に個人を尊重し、言動に失礼のないよう心がけています。個人情報に関する守秘義務について周知徹底されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の理解力にあった声掛けを行う事で自己決定ができるように努めている。また、表情や仕草、話す環境なども意識するようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしている。外出の希望などにも可能な限り答えている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを手伝ったり、本人と一緒に服を買いに行ったりしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒にメニューを考え、買出しにも一緒に行き食材を選んだりしている。準備から片付けまでそれぞれ役割をもっておこなっている	献立は本やチラシを見て入居者と一緒に決めています。食材の買出しは毎日交代でスーパーに行っています。料理は入居者と会話も楽しみながら作り、一緒に食べて更に楽しい食事となるよう雰囲気作りにも努めています。ホームの食事ばかりでなく、出前を取ったり、外に出かけて日頃食べられない料理を注文して食べたり、喜びや満足感も得られるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	彩りよく、旬の物を取り入れるように心がけている。水分が足りない方には本人の好む飲み物を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず声掛けや仕上げの介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせた定時誘導やパットの交換を行っている。オムツ使用時様子に合わせて再検討を行いながら支援している	一人ひとりの排泄リズムに合わせてながらトイレでの排泄支援が行われています。誘導や声かけのタイミングが合わなくなった場合は排泄チェック時間を検討しその人に合う時間や間隔を見つけて支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動は日常的に取り入れられている。食事面でも繊維質を多く取れるようにしたり、好みの飲み物を提供するようにしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主治医からの特別な指示の無い方は、毎日入浴をしたり、希望に合わせて一日おきに入浴したりしている。また、入浴しない日は清拭を行っている	一日おきに入浴しています。入浴は面倒と嫌がる入居者もいますが湯船に浸れば「極楽、極楽」ととても喜ばれています。入居者が気楽にのんびりと入浴できるよう必要以上に手を出さないよう見守っています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に合わせて休息を促したり、寝付けない方には一緒にお茶を飲んだり話しをして安心できるようにしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフが管理している。薬の説明書は入るにまとめてあり、いつでも手に取れる状態になっている。形状などの飲みにくさや症状があった時には主治医に連絡を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性利用者は、家事仕事を役割としている方が多い。家事仕事をを行わない男性利用者にもラジオ体操の音頭をとってもらったりしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買出しや散歩など外出はほぼ毎日行われている。月1の行事では、普段いけない温泉や外食などに出かけている。個別の要望に対しては家族等と相談し対応をしている	毎月の「おらち通信」には四季折々の外出や名所や観光地へのドライブツアーのスナップ写真を掲載し外出の様子を報告しています。車椅子やシルバーカーの入居者も皆で一緒に出かけて、リフレッシュしています。社会との関わりを継続するために一日一回外出することを目標に取り組んでいます。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っていないと不安な方には家族等と相談して所持してもらっている。希望の無い方や管理のできない方に関してはホームで預かり金として出納帳により管理している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で番号を押せない方には取次ぎの支援を行っている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節の飾りつけや自分たちで作った塗り絵やカレンダー、行事の写真などを飾っている。温度などもご利用者に聞きながら冷暖房の管理をしている	居間と食堂、オープンキッチンがワンフロアとなっています。テレビを囲むようにソファがありカラオケを楽しんだり、テーブルでは料理の準備やタオルたたみも行われています。今年初めての大雪を眺めながら快適な環境の中、過ごされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたりして、くつろげるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活スタイルを活かし畳やカーペット、机などを持ち込んでもらっている。家族の写真なども飾られている	規定より広めの部屋には自宅と同じようにくつろいで過ごせるように使い慣れたベッドや机などが持ち込まれており家族写真があり、誕生日の色紙が飾られるなど思い思いの居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や浴室などの表示を行っている。また、石鹸やゴミ箱、ポットなどにも名称が記入してありわかりやすくしてある		